

なぜ私たちはヘブル語を学ぶ必要があるのか

●戦争の世紀と言われた 20 世紀半ばで、神は、それまでだれも考えることのできなかった奇蹟を行われました。それはイスラエルの復興です。神はなぜイスラエルを回復させられたのか。その目的は何なのか。その目的の一つとして考えられることは、神が神によって選ばれたイスラエルの民を通して、再び、諸国を祝福するという偉大な器とするためです。それはそれまで諸国には与えられていなかったことを祝福するため、それはズバリ、ヘブル語の復興です。二千年近い年月において、ヘブル語は日常語としては使われることはありませんでしたが、国としての復興とともに、ヘブル語をも復活されたことです。この働きに直接的にかかわったのは、エリエゼル・ベン・イエフダーという人でした。それはまさに名前のこどく、「神の助けによってこの偉業を成し遂げたユダの子」でした。つまり、イスラエルの再建(再興)とヘブル語の復興には密接な関係があるということです。そもそもヘブル語は神のことばであり、神の世界の概念を最も的確に伝えるための言語なのです。そのことを念頭に入れておくことは重要です。

1. 神は人々の言語をひっくり返す

●なぜ、私たちはヘブル語を学ぶ必要があるのか。そのヒントとなるみことばが、ゼパニヤ書 3 章 9 節に示唆されています。

ヴェルラー	サーファー	アンミーム エル	エフポーフ	アーズ	キー
בְּרוּרָה	שִׁפְהָ	אֶל-עַמִּים	אֶהְפֹּךְ	אֲז	כִּי-
きよい	くちびる(言語)	諸国の民のために	わたしは〜に変える	その時	というのは

【新改訳改訂 3】

そのとき、わたしは、国々の民のくちびるを変えてきよくする。彼らはみな【主】の御名によって祈り、一つになって主に仕える。

【口語訳】

その時わたしはもろもろの民に清きくちびるを与え、すべて彼らに主の名を呼ばせ、心をつにして主に仕えさせる。

【新共同訳】

その後、わたしは諸国の民に／清い唇を与える。彼らは皆、主の名を唱え／一つとなって主に仕える。

●以上のように、翻訳のニュアンスは微妙に異なっています。「くちびる」「唇」と訳された「サーファー」は、「言葉」とか「言語」とも訳されます。人間の言葉の概念は神の概念と異なっているために、神の言葉の概念が鮮明にされる必要があるのです。「わたしは、国々の民のくちびるを変えてきよくする」とは、そのことを意味しています。つまり、諸国の民の言葉の概念を変えて、ひっくり返して、神の概念をより鮮明に、明瞭に理解させる必要があるのです。そのことによって、諸国の民は、主の御名を正しく理解し、心をつにして主に仕えることができるのです。

- **שָׁפָר** ●名詞「サーファー」は「くちびる、言葉、言語」を意味します。
- **הָרַחֵף** ●動詞の「ハーハフ」は「覆す、倒す、ひっくり返す、変える、くつがえす」を意味します。
- **בָּרַר** ●動詞の「バーラル」。ここでは受動態分詞で「きよくされる、純化される、選ばれた、輝かされた、賢明にされた」を意味します。

●「そのとき、わたしは、国々の民のくちびるを変えてきよくする。」とはどういうことでしょうか。この聖書箇所は、どの訳を見ても意味がはっきりしません。しかし、次のように翻訳することができます。つまり、「神である主は、諸国の民のために、(神が)選ばれた原語を明瞭にする」と。「明瞭にする」のは、ここでは「わたし」と語っている神ご自身です。神が選ばれたきよい言語とはヘブル語のことです。

●ゼパニヤ書は神の民に対する神の怒りの書と言われます。その神の怒りは、最終的には、反キリストによる大患難を通して現わされます。「そのとき」とは、「終わりの時」です。つまり、神の世界の概念を正しく理解させるために、主ご自身が、諸国の民に選ばれたきよい言語、すなわちヘブル語の言語を明瞭にするという預言として理解することができます。

2. 「バーラル」という動詞に隠されているメッセージ

●英語のアルファベット a, b, c・・・の文字一つひとつには何の意味もありませんが、ヘブル語のアルファベットの文字一つひとつには意味があります。たとえば、今回の「バーラル」(**בָּרַר**)という動詞を見ると、最初の「 Beit 」(**ב**)は「家」を意味します。「Beit」の文字は、「息子」を意味する「Ben」(**בן**)の頭文字です。次の文字は「reshu」(**ר**)で、「かしら、最初」を意味します。「reshu」(**ר**)が2回続けばその意味は強調されていると言えます。神の「家」「息子」「かしら」ということから連想されるのは、神の息子である御子イエスです。つまり、「バーラル」は、神のひとり息子である御子イエスを啓示している言葉と言えます。ここで「きよくする、純化する、選ぶ、輝く、賢明にする」という意味を持つ「バーラル」(**בָּרַר**)という動詞は、御子イエスを指し示していると言えるのです。

●さらに、面白いことは、「バーラル」(**בָּרַר**)の頭に、目を意味する「ayin」(**עין**)の頭文字(**ע**)を付けると、動詞の「アーヴァル」(**עָבַר**)となります。この動詞の意味は、「渡る、越える、越えて来る」という意味です。そしてこの動詞を名詞にすると、「イヴリー」(**עִבְרִי**)となります。これは「ヘブル人」を意味します。つまり、**ヘブル人とは神の視点、すなわち御子イエスの視点をもって渡って来た者**を意味します。では、どこからどこへ向かって渡って来たのでしょうか。実は、そのことが重要です。

●そのことを理解するために、ゼカリヤ書 9 章 12~13 節を見てみましょう。

【新改訳改訂第3版】

12 望みを持つ捕らわれ人よ。とりでに帰れ。わたしは、きょうもまた告げ知らせる。わたしは二倍のものをあ

なたに返すと。

13 わたしはユダを曲げてわたしの弓とし、これにエフライムをつがえたのだ。シオンよ。わたしはあなたの子らを奮い立たせる。**ヤワン**はあなたの子らを攻めるが、わたしはあなたを勇士の剣のようにする。

●ゼカリヤ書 9 章は、メシアの初臨と再臨、そして全イスラエルが長子としての権利を回復することが預言されているきわめて重要な章です。全イスラエルはここでは「望みを持つ捕らわれ人よ。」と呼ばかけられ、メシアが君臨される「とりでに帰れ」と語られます。「とりで」とはエルサレムのことです。そして全イスラエルは、神の長子としての権利を回復されます。そのことを聖書は「二倍のものを帰す」と表現しています。なぜなら、長子の権利は「二倍の祝福」を受けることだからです。そして主は、「シオンよ。わたしはあなたの子らを奮い立たせる。**ヤワン**はあなたの子らを攻めるが、わたしはあなたを勇士の剣のようにする。」と呼ばかけています。

●ここで出て来る「**ヤワン**」ということばは、「ギリシア人」のことを意味しています。ギリシア人とは、ヘレニズムの文化をもった、いわば、人間中心主義の世界観を象徴しています。そのヤワンが「あなたの子らを攻める」とは、ヘブライニズムの神中心主義の世界観を攻撃するということです。しかし、神は「わたしはあなたを勇士の剣のようにする」と預言しています。

●ここで言いたいことは、神中心主義に立つ者たちはみな「ヘブル人」と言えます。異邦人であってイエス・キリストを信じることによって、ヘブル人に接ぎ木されているからです。このヘブル人とは、「人間中心の世界」から「神中心の世界」に渡って来た者たちを意味するのです。イスラエルの国の復興と同時に、ヘブル語が復興したことには、終わりの日に向けた神の深遠なご計画と意図が隠されているのです。

3. ヘブル語を学ぶことの意味

●ヘブル語を学ぶということは、単に、一つの言語を学ぶということではなく、**御子イエスの観点から聖書を学ぶこと**なのです。それは聖書のはじめから終わりまでの全体を神からの啓示の書として、すべてが御子イエスを啓示している書として理解することを意味します。ヘブル語を学ぶことは、その鍵を持つことを意味します。またそれは、同時に、人間中心のヘレニズムの世界から神中心のヘブライズムの世界へ渡って来ることを意味します。この時代において、特に「終わりの時代」においては、**ヘレニズムに対抗できる唯一の道はヘブライズムに立つこと**です。それ以外の道はありません。神はその道を回復しようとしておられるのです。それに参与するためにも、ヘブル語を学ぶことはとても価値ある取り組みと言えるのです。

2013.12.17

※付記

この文書は、ジーザス・コミュニティ石狩教会(金聖圭牧師)の主催で、2013年12月6~8日に、ダビデ・リー師を招いて行われた「ヘブライ語スクール」における講義(I)を基に、幾分、加筆しながら、私なりに理解したことをまとめるために作成したものです。

銘形 秀則